

法政大学 同窓会会報

社会学部同窓会

第19号

発行 法政大学
社会学部同窓会事務局
(月・水)

住所 〒194-0298
東京都町田市相原町4342
☎・FAX 042-783-2421

法政大学卒業生評議員に 社会学部卒業生の代表 森田忠男 同窓会会長を 再び送りましょう

「朝日新聞」9月25日付朝刊に「学校法人法政大学卒業生評議員選挙のお知らせ」が掲載されました。

三回目の卒業生評議員選挙の告示です。

一九九五年に法政大学の「寄付行為」が改正され、校友評議員の選任方法が抜本的に改められました。新たに「卒業生評議員選挙規則」が定められ、法政大学の全卒業生(付属高を含む、25歳以上)のうちあらかじめ選挙人名簿に登録されている者(選挙人)による直接選挙(郵送投票)で卒業生評議員を選出するというものです。

過去二回の選挙をつうじて、法政大学の学校経営における評議員会の占める位置とその役割について認識を新たにするとともに、この制度的仕組みの重要な意義についても理解が深められました。この仕組みはしだいに定着しつつあるといえます。

社会学部同窓会の役員会は、大学改革の一環として卒業生と連携を密にし卒業生の声を大学経営に反映させようとのこの措置を歓迎し、大学からの協力要請に応えて、これまで社会学部卒業生の代表として、第一回は黒坂一久前会長(現顧問)、第二回は森田忠男会長を推薦し、この選

挙に取り組みました。お二人は共に当選を果たされ、評議員としてその重責を全うされたことは、同窓会会報に執筆していただいた「評議員会報告」でご存知の方も多いことでしょう。

森田会長がはつたりのない温厚篤実な性格、それでいて芯の強さを秘めた人柄の持ち主であること、特に

慎重審議の結果、ひきつづき森田忠男同窓会会長を社会学部卒業生の代表として評議員候補に推薦し、全力を尽くして選挙に取り組みたいといたしました。

森田会長がはつたりのない温厚篤実な性格、それでいて芯の強さを秘めた人柄の持ち主であること、特に

同窓会会報紙上の評議員会報告

【選出経過】
一九九六年一月三日 大学、全国紙で卒業生に登録を呼び掛ける。
一九九七年四月二七日 同窓会推薦者四九名による

黒坂会長の立候補を届ける。
一九九七年八月三日 開票。黒坂会長二五位・五〇八票(定数二八)で当選。

一九九八年九月二五日 大学による卒業生評議員選挙の知らせが全国紙でなされる。
一九九九年二月二六日 第二回校友評議員選挙。森田会長、二〇位七三二票で当選。
以下、森田評議員の報告

【第一回評議員会】

わが学校法人法政大学は、いま、歴史的な画期を迎えている。このところ4つの学部を新設し、続いて学科学部を新設し、専攻を新設するなど、飛躍的に規模が拡大している。また、それとともに教育や研究の質的充実・向上への期待が高まっている。

それだけに、いま、学校法人法政大学の経営は、大きな課題と重要な責任を負っている。現下の不確実な政治経済状況のもとで、経営の堅実と安定を維持し、有数の私学として教育と研究を一層発展させ、独自の社会的位置を占め続けるにはいかに舵を

センズ・オブ・プロポーションに優れ、筋道立った説得力のある語り口、いつも前向きに対応される姿勢と指導力を兼ね備えたりリーダーであることは、多くの人がこのたびの卒業生評議員選挙の意義をご理解いただき、卒業生の皆さんの絶大なご支援をお願いいたします。

選挙は郵便投票で行われます。投票用紙は来年1月22日までに選挙人本人宛に送られてきます。2月25日必着で投票して下さい。一人でも多くの友人、知人に声をかけて下さい。募金も宜しくお願いいたします。

【第二回評議員会】

理事選挙に立候補。二三年の二九秒を取り返し、シード権を獲得するため、チーム全体で走りに行きました。

【第三回評議員会】

往路では二区でトップに立ち、五区のラスト2kmまでトップを走るといって快走で、往路三位、復路四位でシード権獲得という目標以上の結果を残すことができました。

【第四回評議員会】

入学定員の減少、経常費バランスの見直し、市ヶ谷近隣地区購入について質問。

【第五回評議員会】

教学改革課題として社会学部の母体出身教員が少なくないことを指摘。

【第六回評議員会】

大学と校友のあり方について校友会と学部同窓会の大連合を主張。

今年の箱根駅伝では、去年の二九秒を取り返し、シード権を獲得するため、チーム全体で走りに行きました。

往路では二区でトップに立ち、五区のラスト2kmまでトップを走るといって快走で、往路三位、復路四位でシード権獲得という目標以上の結果を残すことができました。

この結果に満足することなく「二〇〇二年駅伝」でさらに良い結果を残したいと選手一人一人が目標に向かって日々努力に励んでいます。

今年は、学生三大駅伝と呼ばれる出雲駅伝、全日本大学駅伝、箱根駅伝に出場して法政大学陸上部をアピールできることになりました。この三大駅伝を一つ一つこなしていくために、夏合宿を四回も行い、一日に五〇kmをふむ日もあり、月間走行距離一〇〇〇km近く

今年、学生三大駅伝と呼ばれる出雲駅伝、全日本大学駅伝、箱根駅伝に出場して法政大学陸上部をアピールできることになりました。この三大駅伝を一つ一つこなしていくために、夏合宿を四回も行い、一日に五〇kmをふむ日もあり、月間走行距離一〇〇〇km近く



8~9月白樺高原で走り込み

すべてとることができ、あとでは今年学生最後の年なので、箱根にかけたい思いは人一倍強いのです。一年生から三年生まで三回箱根駅伝を走らせていただきます。箱根を走るたびに、私自身いろいろ考えさすべてとることができ、あとでは今年学生最後の年なので、箱根にかけたい思いは人一倍強いのです。一年生から三年生まで三回箱根駅伝を走らせていただきます。箱根を走るたびに、私自身いろいろ考えさすべてとることができ、あとでは今年学生最後の年なので、箱根にかけたい思いは人一倍強いのです。一年生から三年生まで三回箱根駅伝を走らせていただきます。箱根を走るたびに、私自身いろいろ考えさ

法政大学陸上部
長距離主宰 徳本一善
(社会学部四年)

森田忠男氏を評議員に推薦します

(数字は卒年次)

代表 黒坂一久

- | | | | |
|------------|------------|-----------|-----------|
| 大矢常吉 (54) | 久保田和幸 (60) | 原 泉 (60) | 大橋 弘 (64) |
| 鈴木和男 (54) | 土屋幸雄 (60) | 平山孝子 (60) | 小川智将 (64) |
| 松島春海 (54) | 小川俊和 (56) | 宮本 徹 (60) | 副田真也 (65) |
| 広瀬貞雄 (55) | | | 吉原 茂 (65) |
| 村木 亨 (55) | | | 古屋 清 (66) |
| 橋田仁楷 (55) | | | 水上久忠 (69) |
| 田辺 実 (55) | | | 竹下睿典 (70) |
| 寺澤哲夫 (56) | | | 宇佐美貴 (75) |
| 岡田金次郎 (56) | | | 北島 洋 (法) |
| 萩原武太郎 (56) | | | 吉崎秀夫 (61) |
| 山本友一 (56) | | | 近藤孝文 (61) |
| 白木信次 (57) | | | 中村一廣 (61) |
| 藤木正順 (57) | | | 河野賢一 (文) |
| 鈴木章孔 (59) | | | 塚田 勝 (71) |
| 高桑年昭 (58) | | | |
| 高桑美智子 (58) | | | |
| 原 春夫 (59) | | | |
| 関 一夫 (56) | | | |
| | 八坂 巖 (61) | 落合正行 (62) | |
| | 近藤栄一 (61) | 川杉光司 (62) | |
| | 千葉正顕 (61) | 宮本悦子 (60) | |
| | 嶋 哲雄 (61) | 鹿山秀佳 (59) | |
| | 伊藤正義 (62) | 山谷次男 (59) | |



“期待される評議員像”

前法政大学理事 石坂悦男

法人の業務若しくは財産の状況又は役員(理事、監事)の責任を担い一切の業務執行について決定権を有するが、学校法人が、民法上の財団が拡大している。また、それとともに教育や研究の質的充実・向上への期待が高まっている。

それだけに、いま、学校法人法政大学の経営は、大きな課題と重要な責任を負っている。現下の不確実な政治経済状況のもとで、経営の堅実と安定を維持し、有数の私学として教育と研究を一層発展させ、独自の社会的位置を占め続けるにはいかに舵を

共性や公益性を高め、理事の政策決定の適切性や経営の透明度を担保するため、私立学校法により評議員会が設けられている。学校法人法政大学においては、「評議員会は、この

3条)。とくに、本学の場場合には、私立学校法に基づき、予算や借入金、重要な資産の処分、寄付行為の変更等に関し、評議員会の承認や議決を必要としている。今後、学校法人法政大学が、私学自治を前提に自主性を発揮して教育・研究を一層発展させ、社会的に独

土曜セミナー
2002年度
三木清と服部之聰
—親鸞をめぐる—
(4面参照)

(社会学部教授)